

日本ユニシス株式会社

2009年3月期決算説明会（2009年5月13日開催）

主な質疑応答

内容につきましてはご理解いただきやすいよう部分的に加筆・修正を加えております。

【2010年3月期業績見通しについて】

Q：顧客業種別の2010年3月期売上見通しについて解説してほしい。

A：金融機関は制度改正等に係わるIT投資が2009年3月期まで旺盛であった反動で、2010年3月期は減速感が否めない。昨年好調だった商業流通も景況悪化の影響を受けると見込んでいる。一方、電力・サービス・その他はこれ以上の底割れはないと考えており、前期比での増収を見込んでいる。また、官公庁は大型案件を進めていることもあり、増収を見込んでいる。

Q：充電インフラ関連事業は、2010年3月期の業績計画に含めているか知りたい。

A：電気自動車等の充電インフラ関連事業は実証実験段階であり、2010年3月期の業績計画には入れていない。2012年3月期頃には売上貢献してくるものと期待している。

Q：もともと下期に利益が偏重する事業構造だが、今上期はさらに利益が出ない計画になっている。3月に急減速したようだが、4、5月はどういう状況か説明して欲しい。

A：昨年度は2、3月にかけて相当に悪化したが、4月は例年仕込みの段階であり、目に見えてプラス傾向は見えていないものの、順次改善していくと思っている。

【事業方針について】

Q：地銀アウトソーシング事業における2009年3月期の減損損失について確認したい。機械および運搬具、その他諸々あわせて215億円減損されたが、減損するに至った背景といつのタイミングで認識したのか教えて欲しい。

A：4月に入って、2010年3月期の見通しを算出していく過程で、売上区分におけるアウトソーシングの売上総利益が2009年3月期に続き2010年3月期も赤字見通しとなったため、「減損の兆候あり」と判断するに至った。このため、売上総利益が赤字となった主要因であるS-BITS（地銀勘定系アウトソーシング）関連資産に対し、予想将来キャッシュフローの現在価値との差額を減損処理した。

Q：地銀勘定系システムについて、すでに稼働中の2行は、完全に落ち着いているのか？

A：システムの品質上何ら問題もなく、安定的に稼働している。今回の問題はシステム上の問題ではなく、あくまでアウトソーシングにおけるサービス内容というメニュー上の問題である。

Q：S-BITS事業を中期的に見たとき、20行が加盟した場合、どれくらいの利益貢献をするのか教えて欲しい。

A：2009年3月期は、S-BITS関連において、売上総利益で30億円の赤字となったが、今回の特別損失を計上したことにより、2010年3月期は、6億円の黒字となり、36億円改善する。2011年3月期以降も順次回復していくという見通しである。

Q：ICTホスティング事業は利益率が低いように見えるが、業績には短期的にはポジティブに効くのか、ネガティブなのか、どのようにイメージしているのか？

A：今期は280人程度投入しており、このコストを入れるとマイナスになると考えているが、新たに人を雇用したわけではなく、シフトしただけなので、新たなキャッシュアウトにはなっていない。それほど設備投資が必要ではないので、新たなコスト増にはならない。

Q：昨年度の粗利益率が、特に4Qにかけて過去にないほど向上したが、審査を厳しくする方針を続け、受注を絞りすぎたのではないか？

A：内部統制を確立し、どういう案件でもスクリーンにかけられるということがわかってきたので、今後はもう少し積極的に受注していきたい。

以上

(注)本資料で記述しております業績見通し等の予測数値は、現時点での入手可能な情報による判断および仮定に基づき算定しており、リスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、実際の業績は、本資料における見通しと大きく異なる可能性があることをご承知おきください。また、本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。